

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第1回全体会議
2 開催日時	令和元年7月29日(月曜日) 14時00分～16時10分
3 開催場所	姫路キャッスルグランヴィリオホテル 3階 錦扇の間
4 出席者又は欠席者名	姫路市総合計画策定審議会委員 48人中 40人(5人欠席、3人代理) 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 4人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可(10人) 傍聴人(0人)
6 議題又は案件及び結論等	1 開会 2 市長挨拶 3 市議会議長挨拶 4 委員・参与委嘱 5 委員・参与紹介 6 姫路市総合計画策定審議会概要説明 7 議事 (1) 会長・副会長互選 (2) 会長挨拶 (3) 諮問 (4) 職務代理者の指名 (5) 分科会委員の指名 (6) 分科会会長・副会長の指名 (7) 姫路市総合計画 策定方針案について

(8) 姫路市総合計画 基本構想骨子案について

(9) 市政の概要について

(10) 人口減少がもたらす影響と課題 (姫路経済研究所)

(11) 意見交換

8 連絡事項

9 閉会

7 会議の全部内容又は進行記録

詳細については別紙参照

姫路市総合計画策定審議会 第1回全体会議

別紙

事務局	1 開会（14:00）
市長	2 市長挨拶
市議会議員	3 市議会議員挨拶
事務局	4 委員・参与委嘱 ・委嘱状交付 ・議事の進行上、机上交付とする。 ・配布資料確認
事務局	5 委員・参与紹介
事務局	6 姫路市総合計画策定審議会概要説明 ・姫路市総合計画策定審議会条例〔資料2〕 ・姫路市総合計画策定体制〔資料3-1〕 ・姫路市総合計画策定スケジュール〔資料3-2〕
事務局	7 議事 （1）会長・副会長互選 会長、副会長を以下のとおり決定した。 会長 太田 勲 委員 副会長 藤本真里 委員 永廣 顕 委員 井上清美 委員 道谷 卓 委員
会長	（2）会長挨拶 （3）諮問 （4）職務代理者の指名 会長より職務代理者に藤本副会長を指名した。

各分科会長	<p>(5) 分科会委員の指名 「(当日資料1) 姫路市総合計画策定審議会・分科会委員名簿(案)」 のとおり決定した。</p> <p>(6) 分科会長・副会長の指名 ア 会長より分科会長を下記のとおり指名した。</p> <p>第1分科会長 藤本真里 委員 第2分科会長 永廣 顕 委員 第3分科会長 井上清美 委員 第4分科会長 道谷 卓 委員</p> <p>イ 各分科会長より分科会副会長を下記のとおり指名した。</p> <p>第1分科会長 太田尚孝 委員 第2分科会長 吉田裕康 委員 第3分科会長 長瀬善雄 委員 第4分科会長 岩田稔恵 委員</p>
事務局	<p>(7) 姫路市総合計画 策定方針案について (8) 姫路市総合計画 基本構想骨子案について (9) 市政の概要について (10) 人口減少がもたらす影響と課題(姫路経済研究所) (11) 意見交換</p>
委員	<p>・少子高齢化・人口減少は待ったなし。これからは行政・産官学・地域が協力していかなければならない。これまで経済活動で成長してきた地域経済も急ブレーキがかかり厳しい状態である。これから会議を進めるにあたり、従来の、ひめじ創生戦略会議・中播磨地域創生戦略などが、この会議とどのようにリンクをしていくのかについて聞きたい。</p> <p>・もうひとつは基本構想の骨子の中で市民、企業・団体がそれぞれの特徴を活かして活力のある生活環境づくりをしていくということだが、市民としてどのように関わっていけばよいかについて聞きたい。</p>
事務局	<p>・ひめじ創生戦略会議・中播磨地域創生戦略会議とのリンクについて、ひめじ創生戦略会議の計画期間が2019年度までとなっているので、新総合計</p>

	<p>画の中に内容を盛り込み、一体化して進めていきたい。中播磨地域創生戦略会議については兵庫県が主催しており、中播磨地域における地域創生の取組を支援するものであり、この審議会と直接リンクして進めていくものではないが、中播磨地域創生戦略会議の審議内容も十分に参考にしながら新総合計画を作成していきたい。</p> <p>・市民、企業・団体、行政がどういった役割を果たし、姫路市のまちづくりに参加していけばよいかについて、姫路市では従来から市政の推進について様々な団体に協力をしてもらい感謝している。今回の新総合計画策定にあたっては、「姫路市まちづくりと自治の条例」に基づいて進めることとし、条例には協働などが掲げられている。姫路市は自治会、婦人会、老人クラブなどの団体を通じた地域コミュニティの活動が活発な地域である。このような活動を引き続き進めていただき、市とともにまちづくりをしていってもらうことを期待している。</p>
市長	<p>・姫路市が先ずやるべきことは、市民53万人の意見をまとめていくことであるが、市だけでは解決できないこともたくさんあり、県や国への要望も、市民の皆さんの声を反映していかなければ、地方自治はよくならない。そのなかで、姫路市だけではなく、関係する市や拠点と連携していくことも重要と考えている。中播磨地域を意識しつつ、まずは姫路市民の意見を聞き、中播磨での内容と大きくずれることがないように、修正を加える。</p> <p>・現場の声を吸い上げることが重要である。関係する団体の長が参加されているので、まずは自らの団体で意見を集め、素案を作るこの会議で出していきたい。地方自治は身近な問題から解決できるものである。まずはこのような会議をやっていることを自らの団体へ伝え、ここにいる委員個人の意見だけでなく、団体としての意見もいろいろと集めて持ってきてほしい。</p>
委員	<p>・アンケート調査について、おおむね良い結果が出ているが、姫路への愛着について、20歳代が43.3%で最も低いと分析されている。調査からの半年の間で、若者が感じる愛着が最も低いということに対して、なにか追加で分析がなされていれば情報共有しておきたい。少子高齢社会の突破口は</p>

事務局	<p>若者になるので、若者が姫路に魅力を感じる事がまず必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の姫路への愛着を感じる割合が、43.3%で高いとみるか低いとみるかは議論があるところと理解している。地方創生推進室では、若者をターゲットにした様々な施策も行っている。例えば、「ひめじ創生カフェ」という35歳以下の若者を集めて意見を出してもらう会議を実施しているが、今年度は総合計画策定の時期にあたり、全体的なまちづくりに対して議論してもらう予定である。他にも中学生などについても意見を聞いていきたいと考えているので、その結果についても共有したいと思っている。
市長	<p>科学者としての意見であるが、アンケートについては、現在の状況の断面の一部を示すものである。例えば、タバコを吸う人は認知症になりにくいなどの結果が出るが、タバコを吸う人の平均寿命が5歳短いため、認知症になる人が少ないだけである。</p> <p>姫路市に在住する若者に聞いても、多くが東京や大都市圏に一極集中しており、その結果を見ている可能性がある。高齢で、姫路に住み続けているのは、姫路に愛着を持っているからである。少なくとも若者の半数が姫路に居たいと思っていることは、好意的に受け止めないといけない。IターンUターン等を促す政策により、魅力あるまちづくりが重要である。アンケートはあくまでも参考として示しており、この結果が全ての指針になるわけではない。定点観察により変化を見ることや、PDCAでチェックを繰り返していく。このアンケート結果をどう見るかは人によってちがうので、それぞれの立場により認識して活用すればよい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等、調査をしっかりと行い、それに基づいて行動指針等を立てていることに驚いた。 ・そこで3点ほど質問がある。1点目、交流人口及び、関係人口の目標値をどれくらいにするかを定めていれば教えてほしい。 ・2点目、行動指針の案について、市民、企業・団体、行政などに分けているが、どれもその中にいるのは全て市民であり、市民により住民、企業・団体、行政などのそれぞれの立場があるということを明確にしたほうがよい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行動指針を英訳して海外に発信するとよい。若年人口の多さや教育レベルの高さなど、人材の強みを発信すれば、世界の企業を誘致できるのではないか。 ・3点目、防災について考えるときに審議会委員に警察関係者がいないことが気になる。 <p>・1点目、人口ビジョンについての交流人口・関係人口の目標値については、今後の分科会での議論等において考えていく。ちなみに関係人口はふるさと納税寄付者等、姫路市にゆかりのある人を増やしていこうということである。年に1～2度、姫路市にゆかりのある人から意見をいただく場として、ふるさと姫路懇話会という取組を行っている。現在、懇話会のメンバーは340～350人で、今後さらに増やし、姫路市の魅力の発信や、外部からの意見を取り入れたいと考えている。交流人口については、観光都市として観光入込客数を1千万人からどのように増やしていくかを考えていかなければならない。目標値は現在掲げておらず検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2点目、行動指針の文章について、表現や市民それぞれの立場についても検討していきたい。 ・3点目、防災という観点で警察の方がいないことについて、今回は48人の審議会であるが、一人でも多くの人・団体に参加してもらいたいと考え、警察の方の参加も考えていたが、人数の関係もあり、防災に関してもこのメンバーで審議することになった。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・人口目標については本当に議論してほしい。ただコンセンサスとして、私は53万人の信託を得て市長をしているが、やはり周辺市町も一緒に発展していかないといけないと思っている。企業活動における労働人口の減少が少子高齢化社会のなかで危惧されている。最低でも今の播磨としての産業構造を維持するためのマンパワーについての議論や、新しくできる県立病院を播磨全体の大切なインフラだと考えるのであれば、そのあたりにも関係人口が出てくる。そういう広域の意識も持ちながら、中播磨との連携を考えてほしい。 ・警察関係の方については、姫路市の中に警察の職員の方も入ってもらっているので、姫路市の方から必要があれば警察側のOBの方等と連携する

委員	<p>ことができるようにしている。むしろ、日頃あまり連携しにくい自衛隊の方等の方が良いのではないかとということで、ご理解いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この10年間の間に障害者の人は人口減少とは逆に増えている。特に精神障害者においては2割増加している。全体の施策を考えていくときに、人権ということを前提に置いた施策の検討をしてほしい。 ・職員アンケートの中で、総合計画の参照度合いが低いのが、この分析結果を聞きたい。何のための総合計画なのか考えさせられた。地域ブロックに対する考え方についても同様である。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に個人的な意見でもあるが、人口減少のまちづくりの中で障害者と高齢者と女性は大きなキーワードであると考えている。私が目指す市の姿では、障害がある人の自立や就労支援を含めたまちづくりが必要だと考えている。福祉は受けるというイメージで、参加の視点がなかったように思われる。女性の社会進出は進んでいるが、障害者も働けるようにすることが、国の流れでもある。そのため、障害者が働きやすい環境づくりやシステムづくりを進め、特に姫路は進んでいるといえるように、議論を進めてほしいと考えている。障害者に限らず、全ての領域において「ひとをたいせつにする」というコンセプトを全体のあるべき姿として考えてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局へのリクエストです。まちづくりを考えるにあたり、姫路の「人」が見えるということが一番大事であり、息遣いやぬくもりを理解し、姫路の人が笑顔になることが重要だと思う。そのためには概念だけで理解してはいけないので、足りないデータを追加してほしい。これから、まちづくりをしていくためには、先立つお金について見えない。〔当日資料2〕の産業センサスなどについて、事業所数や労働者数だけでなく、労働者の年齢なども。労働者の年齢においては、農林業などは後継者不足などの問題もあるので高齢化率なども知りたい。12ページの市民経済計算も数字のみであると、これが多いのか少ないのかわからない。例えば他都市と比較したり、過去と比較したりするなど、わかりやすくしてほしい。次回はそのような資料も増やしてほしい。防災や福祉についてのデータや、各分野についてのデータをわかりやすく出してほしい。また、分科会では

事務局	共通で見られるようにプロジェクターで映すなど見やすいように工夫してほしい。
事務局	・ 姫路市の問題点がわかりやすい資料作りを心がける。
事務局	8 連絡事項
事務局	9 閉会（16：10）